

施策6 安全かつ適正な中間処理の維持

(1) ごみ処理施設の適正な維持管理 (計画書 P41)

A 事業	B 取り組み内容	C H29.4 方針	D 進捗状況	E 効果、課題・問題点等	F R5.4 方針 (案)	G 見直し (案)
安定したごみ処理体制の維持	1 久喜市、組合と連携し、安定したごみ処理体制を維持 ＜概要＞ 新たなごみ処理施設の稼働まで延命化を図り、安定したごみ処理体制の維持に努めます。	推進	●定期点検に加えて、修繕工事を計画的に実施している。	●廃棄物処理施設の平均供用年数は30.5年で、高温や多湿、摩擦等の状況で稼働することが多いため、他の公共的な施設よりも短い。 ●今後も適正な施設稼働や必要な修繕を講じることで、施設の延命化を実施する必要がある。	継続	●今後も安定的なごみ処理体制が必要となるため継続して実施。
	2 (★)久喜市へのごみ処理事業の事務委託を見据えた体制整備を推進 ＜概要＞ 新たなごみ処理施設稼働後、久喜市へのごみ処理事業の事務委託に向けた体制整備を推進します。	推進	●新しいごみ処理施設稼働に向け、久喜宮代衛生組合からの事務移管及び久喜市へのごみ処理事業の事務委託内容の調整等を進めている。	●三者で連携した動きが必要となる。	継続	●施策5(2)清掃行政のイメージアップの②環境に配慮した収集・運搬の実施から移動。 ●新しいごみ処理施設稼働に向けて体制を構築する必要があるためA事業名を安定したごみ処理体制の構築に変更し、B取り組み内容も久喜市へのごみ処理事業の事務委託に向けた体制整備を推進へと変更。

(2) 資源化量の増加と最終処分量の低減 (計画書 P42)

A 事業	B 取り組み内容	C H29.4 方針	D 進捗状況	E 効果、課題・問題点等	F R5.4 方針 (案)	G 見直し (案)
資源化量の増加と最終処分量の低減	1 (★)再資源化(セメント原料化、人工砂化及び人工骨材化)を推進 ＜概要＞ 最終処分量の削減と資源化量の増加に向けて、焼却残渣(焼却灰・ばいじん)の資源化を継続します。併せてセメント原料や人工砂、路盤材以外の有効活用の方法について今後も引き続き検討します。	推進	●25年度に、ばいじん、28年度には焼却灰の全量資源化を実施。最終処分量が大幅に減少した。 ●不燃ごみの中から、鉄・金属類、アルミニウムを、選別して資源として民間業者に売却をしている。	●最終処分量を少なくすることで、将来の最終処分場の確保にも繋がる。 ●最終処分になっていたものが資源化できることによって限りある資源を有効活用できる。	継続	●最終処分場の確保や限りある資源の活用のため引き続き実施します。なお、新ごみ処理施設稼働後については久喜市との調整結果によることとなります。

★：これまでの取り組みに加えて実施する、あるいは特に力を入れて実施する取り組み (H29.4 策定時)